

# 平成六～七年度 修復文化財関係銘文集成

〈凡例〉

- ・本集成は、平成六～七年度に、京都国立博物館文化財保存修理所において文化財の修復時に確認された銘文等（納入品を含む）を収めたものである。ただし、国指定のものについては除いてある。
- ・配列は、各文化財の修理完成年度毎にまとめ、年度内ではそれぞれの銘文の年代順とした。
- ・銘文の解読は担当者側の判断によったが、なお参照資料として挿図をできるだけ多く入れた。
- ・改行は原文どおりを原則としたが、一部は／等により改行を示したものがあつた。なお漢字は新字体に統一し、異体字は原則として通行の字体に直した。
- ・法量の単位はセンチメートルである。
- ・各銘文の末尾に、①西暦年 ②修理施工者と施工年度 ③参考文献 ④所在地 ⑤備考を付した。
- ・銘文の解読、釈文の作成は、保存修理指導室の赤尾栄慶と淺湫毅が担当し、大阪大学大学院の梶山博史と野瀬莊史が補佐した。
- ・本集成は、担当者が修理所で行った銘文の調査および、各工房から提供を受けた写真等の資料に基づく。なお、掲載の図版は各工房から提供された写真を使用した。

目次

【平成六年度】

彫刻

- 1 地藏菩薩立像  
岐阜県 長滝寺
- 2 伝徳川義季像  
群馬県 長楽寺
- 3 大日如来坐像  
福井県 日吉神社
- 4 仁王像  
沖縄県 桃林寺

【平成七年度】

彫刻

- 5 聖徳太子立像  
京都府 広隆寺
- 6 阿弥陀如来坐像  
滋賀県 福泉寺
- 7 大日如来坐像  
兵庫県 宝満寺
- 8 阿弥陀如来坐像  
京都府 一念寺
- 9 大日如来坐像  
京都府 井脇大日講
- 10 四天王立像の内 増長天・多聞天  
京都府 知恩院
- 11 阿弥陀如来立像及び両脇侍像  
京都府 常照皇寺

工芸

- 12 古楽器二八点のうち

滋賀県 彦根城博物館

【平成6年度】

〔彫刻〕

1 地藏菩薩立像 岐阜県指定文化財

木造 彩色 岐阜県 長滝寺 一躯  
像高 五九・一

〔左足柄外側墨書〕(図1)

きしんし

たてま

つるち

□□は

く山ニ

〔左足柄内側墨書〕(図2)

ために

なかくき

しんした

てまつ

る物なり

〔右足柄内側墨書〕(図3)

よってき

しんの

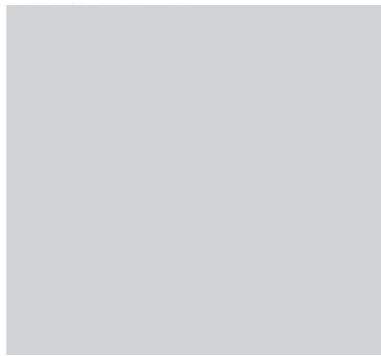
はかりて□

このほん

〔右足柄正面墨書〕(図4)

□ありつ

する也



(図3)



(図1)



(図4)



(図2)

〔右足柄外側墨書〕(図5)

正和五年

十一月三日

道めう

慶賢

①正和五年(一三二六)

②(財)美術院 平成六年度

④岐阜県郡上郡白鳥町

⑤造像銘

2 伝徳川義季像 群馬県指定文化財

木造 彩色 像高 五八・四  
群馬県 長楽寺 一 軀

〔像内背面墨書〕

丙

至徳三年 六月五日

寅

修理之都寺了方

〔像膝裏墨書〕(図6)

戊

文明十年十二月晦日

戌

重々修理之□首座

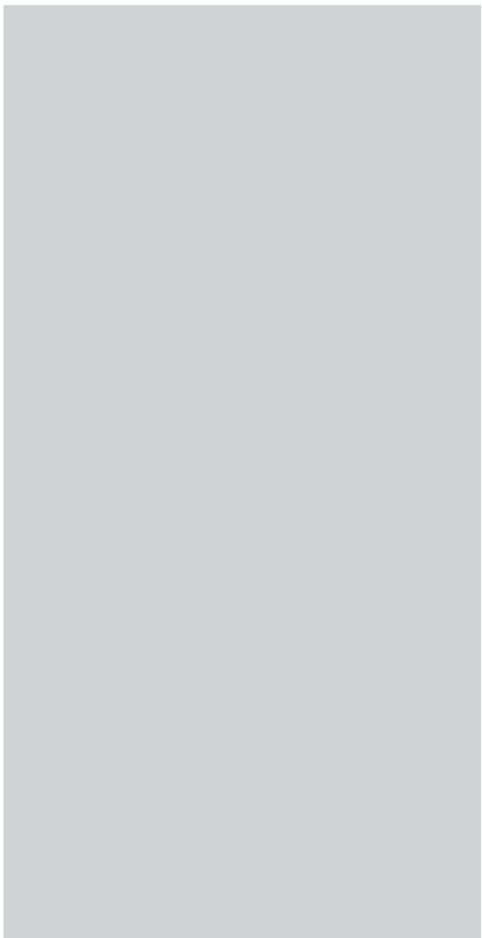
敬 書

明応<sup>乙</sup>卯九月上旬重修理

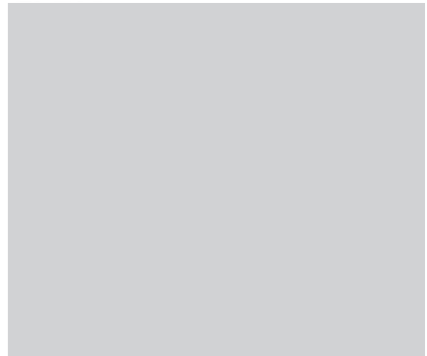
□□ □□□□□□

①至徳三年(一三八六) 文明十年(一四七八) 明応四年(二四九五)

②(財)美術院 平成六年度



(図6)



(図5)

- ④群馬県新田郡尾島町世良田
- ⑤いづれも修理銘

3 大日如来坐像 福井県指定文化財

一 軀  
 福井県 日吉神社  
 木造 漆箔 像高 一五五・六

〔像内木心側面墨書〕(図7)

奉造立御像等覚寺純応戒律沙門

為末代濁世ノ四姓群類仏果田満利益令縁因□□□□

合掌抽自彫割成畢

父八田村丸氏母ハ三好氏若名ハ侍従公生ハ福居足羽郡也□□□□

本跡者泰澄大師御世時元禄八乙亥年九月吉日 実名僧師沙門純因

木代丹生郡内郡村善岳衛□□□□

〔像内木心正面墨書〕

(梵字) 南無阿弥陀仏

①元禄八年(一六九五)

②(財) 美術院 平成六年度

④福井県丹生郡朝日町内郡

⑤修理銘

4 仁王像 冲縄県指定文化財

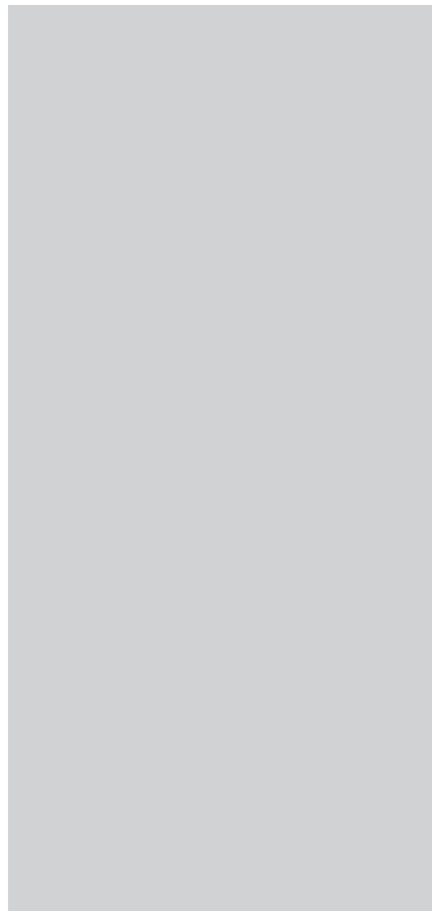
二 軀  
 冲縄県 桃林寺  
 木造 彩色 像高 阿形 一七〇・一  
 吡形 一六七・〇

〔阿形背面裳裾陰刻銘〕(図8)

現住義翁代

奉喜捨

当所頭並諸役人若干人



(図7)

作

文□氏久手堅仁屋吉忠

維時雍正十五歲在丁巳 加勢

上□氏川平仁屋正

夷則穀旦

同

松茂氏小浜仁屋当

①雍正十五年（一七三七）

②（財）美術院 平成五、六年度

④沖繩県八重山石垣市字石垣

⑤造像銘。雍正は中国清朝の年号。ただし十五年は存在せず、実際には乾隆二年である。夷則は陰曆七月、穀旦は吉日のこと。

【平成7年度】

〔彫刻〕

5 聖徳太子立像

一 軀

京都府 広隆寺

木造 像高 一四七・〇（髻を除く）

〔像内背面墨書〕

元永三年歲次庚子改元保安元年 春正月戊寅廿日日次始斧下奉造始太子御影長四尺八寸

同年五月中功畢 同六月二日辛未調定已畢 仏師僧頼範願主定海時年五十四 夏曆四十一

抑仏子定海幻少之昔生年十四之歳春比有事縁誓太子奉結大縁殊奉書写

細字勝鬘經持之不離身十余个年後為守師跡登叡山始構小室住東塔北谷

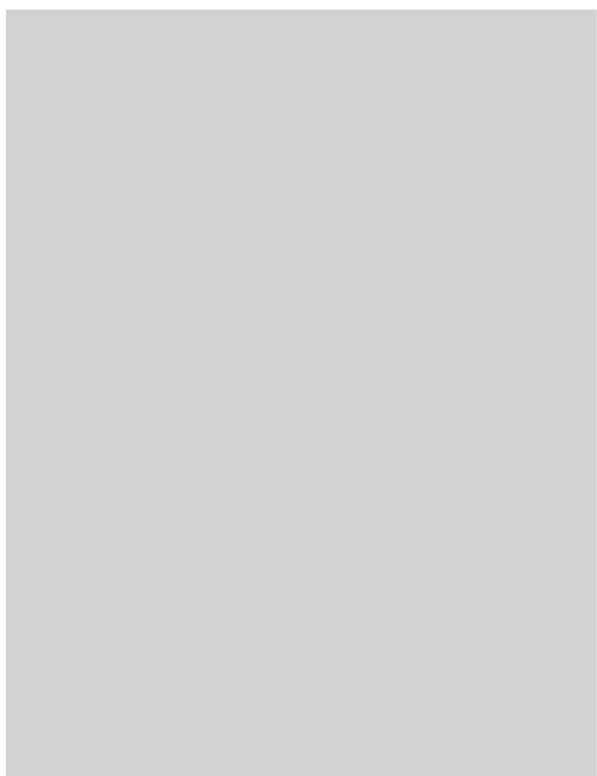
虚空蔵尾随分受学三密教法從潤慶阿闍梨受職灌頂遂本意畢其時生年四十歳

生年四十三之歳遁世発心念仏為宗弥太子興法利生慈悲広恩深心存念之仍

且為□慈悲広恩且為蒙臨終引接奉造立之仰願上宮聖靈仏子現在生之間

弘三障四魔之怖行往坐臥増堅固菩提心最後臨終之時必影嚮給令成就臨終正念

往生極楽之望給及至結縁法界平等利益



(図8)

〔像内前面墨書〕

結縁人：

大檀越女弟子橘氏 大江氏二人 源氏 清原氏 藤原氏

僧覚範 僧忠鑿 尼妙日 僧良千 僧実明

檢非違使左衛門少尉大江行重 漆工師源時定 金物工時貞 玉工清原末国

已上結縁人々各々現世安穩後生善処

心中所求悉地円満乃至法界平等利益

①保安元年（一一二〇）

②（財）美術院 平成七年度

③伊東史朗責任編集『調査報告 広隆寺上宮王院聖徳太子像』（京都大学学術出版会 一九九七年）。『大日本史料』第三編之二十五。

④京都市右京区太秦蜂岡町

⑤造像銘。このほか有銘の納入品多数あり。③の参考文献を参照。

## 6 阿弥陀如来坐像 滋賀県指定文化財

一 軀

滋賀県 福泉寺

木造 漆箔 像高 七八・九

〔膝前材裏朱書銘〕

仏師筑前寺主栄有

開眼絵師越前慶有

紀延弘

源氏

嘉禄三年丁亥二月十日

并修補了

檀越巨勢

貞応元年壬午五月吉□

勸進最暁(花押)

〔像内背面朱書〕

檀越源氏  
字鏡宿長者米持女(花押)

巨勢氏女(花押)

〔底板内側墨書〕

仏師山本治助  
八まん  
与め

①貞応元年(一二二二)・嘉祿三年(一二二七)

②(財)美術院 平成七年度

④滋賀県野洲郡野洲町大字永原六七四

⑤修理銘か。

7 大日如来坐像 兵庫県指定文化財

木造 彩色 像高 一〇一・七  
兵庫県 宝満寺 一 軀

〔像内頭部前面金箔地朱書〕(図9)

(梵字)

心王大日尊

(梵字)

心教曼荼羅(梵字)

(梵字)

三界唯一心(梵字2字)

(梵字)

心外無別法

(梵字2字)

以心供養心色心不二故色□実□□

(梵字) □ (梵字)

(梵字)

勝陀羅尼

(梵字)

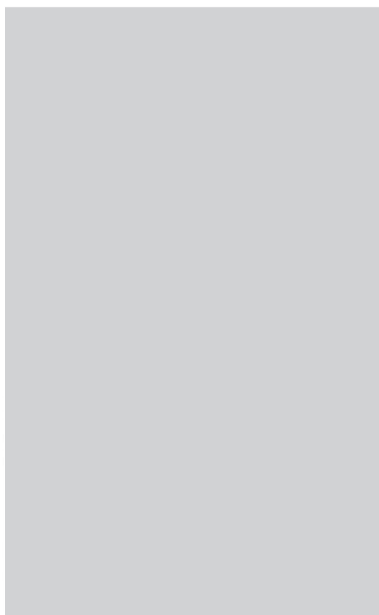
(梵字3字)

仏頂尊

一字入□□□

頓悟自心(梵字)

(梵字2字)



(図9)



(梵字)  
(梵字 2 字)  
(梵字 2 字)  
(一以下、梵字 7 行一)  
(梵字 7 字)  
右為本尊

〔像内頭部背面銀箔地朱書〕

是□住法位 (梵字 3 字)

相常住□ (梵字 2 字)

無有言 (梵字)

(梵字 3 字) 我本 (梵字) (梵字 2 字)

(梵字 3 字) □利益說一一成就

(梵字 4 字) 心中所願

(梵字 2 字)

是法不可示 (梵字) 一二円満

言弁寂滅相

□

〔像内体部前面金箔地朱書〕(図10)

婦命本覺心法身常住妙法心蓮台本來具足三身德三十七尊

住 心城之

(梵字 5 字)

(梵字 5 字)

(梵字 5 字)

普門塵教諸三昧

遠離因果法然具無辺徳本円満

(梵字 6 字)

還我頂礼心諸仏

南無帰依三宝

八葉白蓮一肘間

炳現 (梵字) 字素光色

日 心月輪

日

(梵字) 九月九日亥

(梵字) 永仁二年 甲丙

(梵字)

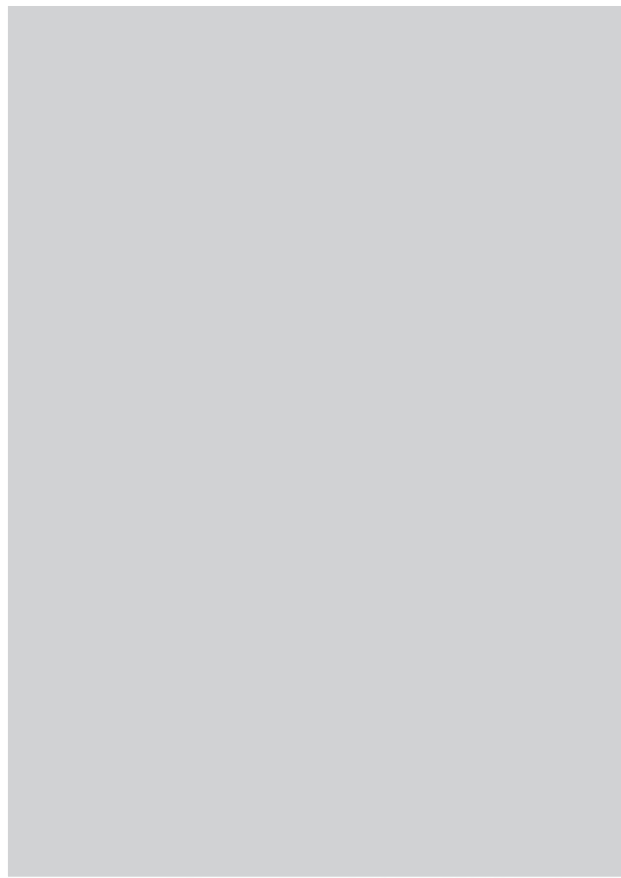
亥子時徳時当

□智俱入金剛縛

□入如来寂靜智

円鏡力故実覺智也 (梵字)

南無自性正法教令 (梵字)



(図10)

大日金剛峯微細住自然  
光明常遍照不壞清淨業

(梵字5字)

(梵字7字)

六大無碍常<sup>マハ</sup>愉快 四種曼荼各不離 (梵字6字)

(梵字5字)

法然具足薩般若各具五智

三密加持速疾顯重重帝網名即身 心数心王過刹塵無細□

〔像内体部背面銀箔地朱書〕

金剛宝寺伽藍安穩興隆佛法

国土安穩天下泰平太上天皇

一切所願皆令満足 三心大願一一円満  
玉体安穩 □大壇那沙門幸尊 日

大勸進三部金剛昨<sup>ノ</sup>日(花押) 大壇那僧幸

(梵字8字)

郷定弁法橋(花押) 結縁

大仏師法眼定運(花押) 康意(花押) 女阿子

三河法橋定盛(花押)

□所願一一成就三世善願決定円満

我竟本不生出 出過語言道

知空等虚□

初過得解脱 遠離於因□

①永仁四年(一二九六)

②(財)美術院 平成七年度

③『金剛山宝満寺大日如来像修理報告書』(神戸山手女子短期大学 一九九七年)

④兵庫県神戸市長田区東尻池町

⑤造像銘。本像は平成九年に国の重要文化財に指定された。

8 阿弥陀如来坐像 京都府指定文化財

京都府 一 念寺 一 軀  
木造 漆箔 像高 二二一・四

〔像内前面墨書〕

光明遍照十方世界念仏衆生攝取不捨

日本国大神善阿 目阿弥陀仏

小神 六親見そく

道阿 導阿

南無阿弥陀仏 一切衆生

性阿 命阿

金阿

二月 聖真阿みた仏

応永三十三年廿七日 妙阿

南無阿弥陀仏記

〔像内背面墨書〕

一切衆生

(沙弥)

南無阿弥陀仏往生

(知)

往生極楽

① 応永三十三年（一四二六）

② (財) 美術院 平成五〜七年度

③ 「京都社寺調査報告Ⅱ」『学叢』第三号（京都国立博物館 一九八一年）。

『京都の文化財（第二集）』（京都府教育委員会 一九八四年）

④ 京都府京都市伏見区下鳥羽三町

⑤ 修理銘。本像は真阿上人による中興の際、東大寺浄土堂から移されたと伝えられる。

9 大日如来坐像 瑞穂町指定文化財

一 木造 京都府 井脇大日講  
漆箔 像高 六三・一

(図11)

〔像内前面墨書〕(図11)

新宮片岡□山 三郎太郎 ひかし新二郎 太郎二郎 大公三郎 ふや兵左衛門 かもん三人  
兵大夫 小二郎 孫四郎 半三 中將左京助 西山上新左衛門二人 ひこ二郎 右京助  
歛々代 修理 小兵衛 五郎 出羽殿 新二郎 善五郎殿 中真寺堂衆 四衛門母  
持一 与太郎 九郎三郎 与太郎 二郎五郎 さか母 上之母 与三郎内五郎 三郎八郎  
下中二郎三郎兵衛 九郎左衛門 新左衛門 九郎三郎 三郎二郎 与三郎 二郎五郎 くぬ木 太郎二郎  
下坪井兵衛 太郎 与介 若林宗清 行阿弥陀仏 妙泉 永春 道真 庄司左衛門二郎  
一坪大夫 □□□ 幸千代丸  
祐順 賢海 妙正 治部殿 筑前守 永正比丘尼現春 天文廿二年母母 癸丑之歳

(梵字2字) 常椿 妙金 常祐 妙慶 寿仙 右京 留守 十一月五日 道観  
為権律師賢阡三十三年忌菩提也 甚左衛門 弥七郎

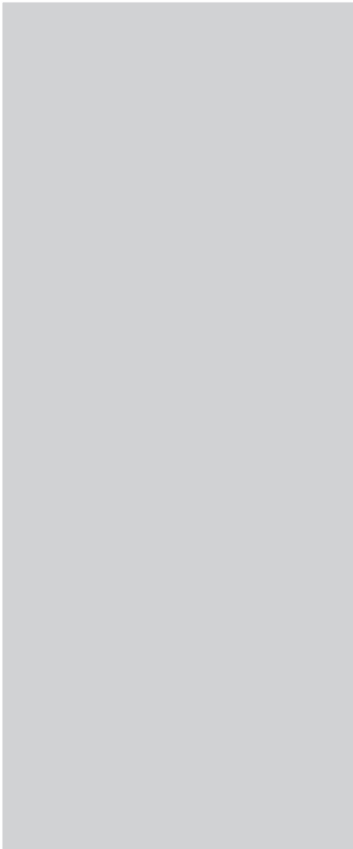
(梵字) 丹州船井郡山内八田村之内滝谷極楽寺本尊奉造立本願者  
(梵字2字) 前越州太守喜菴宗歛禪定門 常西 西之坊少僧都四十五 歳  
妙俊禪定尼 妙真 宗泉 秀音 常金 常通 祐賢(花押)

法賢 正順 妙往 妙貞 妙孝 道真 道安 妙林 仏師持從公之作  
理玉 道観 妙秀 妙通 妙春 道金 善玉 正永  
道安 道本 妙金 妙体

〔像内背面墨書〕(図12)

理春  
同左衛門太郎  
宗殊  
宗須  
宗衆  
惠善 乃至法界 弥左衛門尉  
慶俊 平等利益 善室  
了西  
僧都祐賢 中兵衛

(梵字) 七世父母六親眷属三界万靈十方至聖成仏之本意也



(図12)

〔膝前材底面墨書〕(図13)

右奉造立意趣者

天下泰平国土安穩

庄内無事当村富

貴当寺繁昌衆人

息災延命寿命長

遠衆病悉除如意

吉祥諸願成就之所也

天文廿二年十一月十一日

敬白

少僧都

祐賢(花押)

①天文二十二年(一五五三)

②(財)美術院 平成七年度

④京都府船井郡瑞穂町

⑤造像銘

10 四天王立像の内 増長天・多聞天

木造 彩色 漆箔 像高

京都府 知恩院 二軀  
増長天 一五〇・五  
多聞天 一五七・三

〔多聞天書簡包み紙1〕(図14)

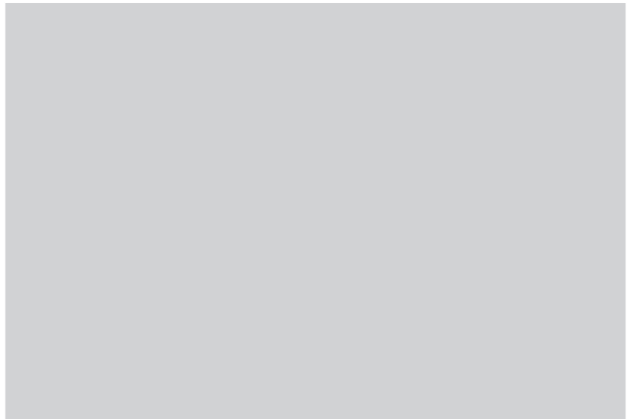
久右衛門

大仏工 伊勢山田

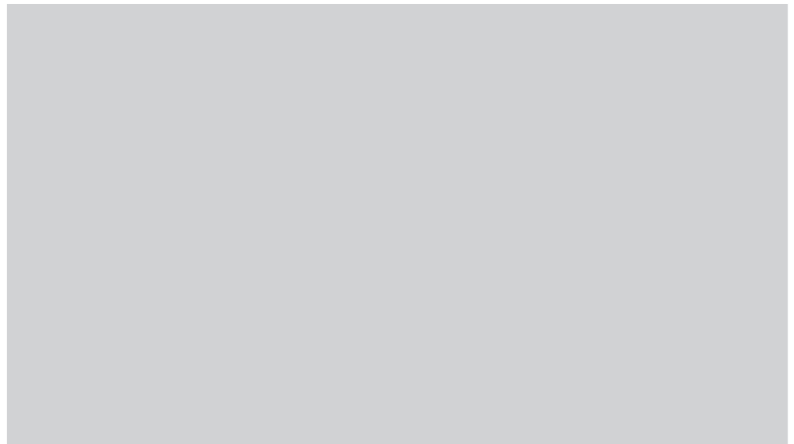
左近様 木下久右衛門

人々御中

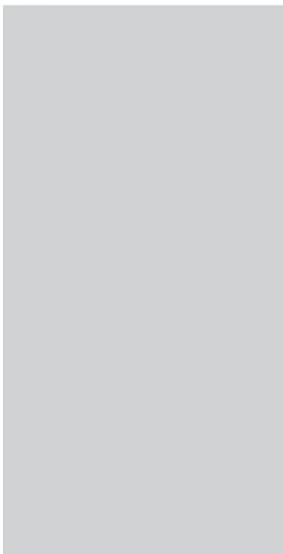
〔多聞天書簡包み紙2〕(図15)



(図13)



(図14)



(図15)

時享保三<sup>戌</sup>十月吉辰

東山弥陀堂四天之内 広目天

古御門前三吉町 大仏工

左近作之

義山和尚様御施主也

〔増長天書簡包み紙〕(図16)

木下久右衛門

□中

從伊勢山田大世古町

十月十三日出之

知恩院古門前之

大仏工

左近様

□

①享保三年(一七一八)

②(財)美術院 平成七年度

④京都府京都市東山区新橋通り大和大路東入る三丁目林下町

⑤造像銘

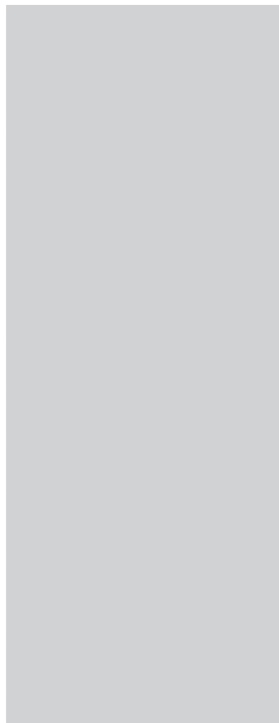
11 阿弥陀如来立像及び両脇侍像

木造 漆箔 像高

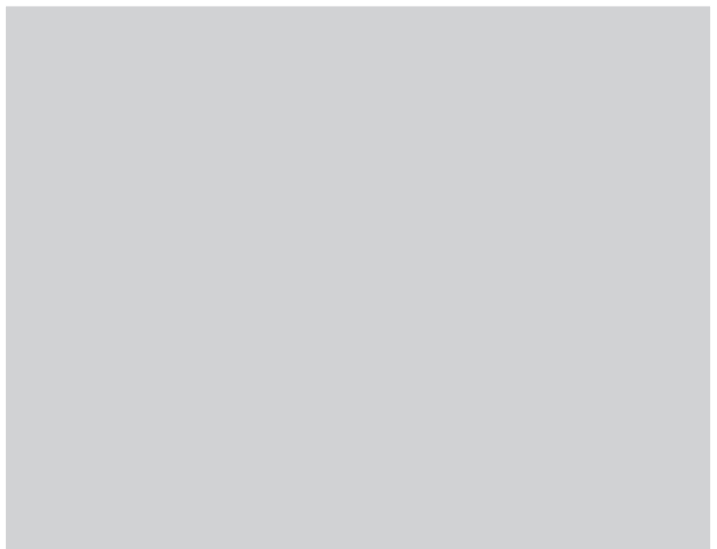
	京都府	三
	常照皇寺	軀
阿弥陀如来	五〇・八	
左脇侍	四三・六	
右脇侍	四四・四	

〔中尊像内背面下部墨書〕(図17)

○廣



(図17)



(図16)

- ② (財) 美術院 平成六～七年度
- ③ 伊東史朗「阿弥陀如来および阿脇侍像」(解説)『院政期の仏像』京都国立博物館 一九九二年
- ④ 京都府北桑田郡京北町
- ⑤ 本三尊は、平成十二年に国の重要文化財に指定された。

〔工芸〕

12 古楽器

滋賀県 二八点のうち  
彦根城博物館  
木造

〔箏その二墨書〕  
徳治二<sup>末</sup>丁仲春

慶祐作

〔和琴その一墨書〕

持明院家臣松本隼人重行作之

永徳元辛酉冬 (花押)

葵

慶安二年丑八月

□岡八兵衛尉重次修覆

〔箏その三墨書〕

永享九丁巳年二月

従五下久時作之

〔箏その四墨書〕

嘉吉貳壬戌二月吉日

松井佐吉造

右文字衆修覆けづり取  
如元書

寛政六年甲寅八月  
田中東二郎

〔箏その五墨書〕

文安五<sup>辰</sup>歳二月吉日

重井忠治作之

天正十三<sup>乙酉</sup>年八月

石村源三修理之

〔琵琶その二墨書〕

宝徳二庚午孟秋

播州室之住人

秋風 撥面秋艸葢画以為銘 円乗作之

今春烏丸光広卿律呂有

松風之音声以而銘庭松賜

慶長九<sup>甲辰</sup>年二月開腹加修理 山室小左衛門

天保十四<sup>癸卯</sup>年九月 東都住

再加修理 菊岡内匠

〔和琴その四墨書〕

文明三<sup>辛卯</sup>年

三月吉日

〔琵琶その一墨書〕

賢意造之

実海

成念

延徳元<sup>巳</sup>年冬腹依令欠加修理者也

大藏卿

〔琵琶その四墨書〕

安永十年

丑二月吉日

〔花押〕

葉岡内匠掾

天文十年<sup>辛</sup>八月十五日 修覆之

新月

名新月以横□宰相

元禄六年

癸ノ酉ノ

仲春

神田吉松修覆

〔箏その一墨書〕

承応三<sup>甲</sup>年十月

今子左太郎

修復之

〔箏その一刻銘〕

吾勤行之暇此箏

製作三月功成翼

善律呂相和故号

三和

信貴山 頼尊

〔箏その三〕

此古弦之箏

寛文四年藪中納言嗣孝卿

小倉宰相実起卿□正音

絶類之由□佑□波与号

朝廷之御箏師神田近江守

以香木包之畢

〔箏その四七墨書〕

文化五戊辰年初夏望日

重元 房吉(花押)

〔箏その四銘札刻銘〕

文政十三<sup>庚</sup>年十一月吉日

□□作再出修覆

中山希明

〔琵琶その五墨書〕

〔梵字〕 嘉

〔梵字3字〕

〔梵字〕 十□

① 徳治二年(一一三〇七) 永徳元年(一一三八二) 永享九年(一一四三七) 嘉

吉二年(一一四四二) 文安五年(一一四四八) 宝徳二年(一一四五〇) 文明

三年(一一四七一) 延徳元年(一一四八九) 天文十年(一一五四二) 天正十

三年(一一五八五) 慶長九年(一一六〇四) 慶安二年(一一六四九) 承応三

年(一一六五四) 寛文四年(一一六六四) 元禄六年(一一六九三) 安永十年

(一一七八一) 寛政六年(一一七九四) 文化五年(一一八〇八) 文政十三年

(一一八三〇) 天保十四年(一一八四三)

② (財) 美術院 平成六、七年度

④ 滋賀県彦根市金亀町